

大阪府高槻市南部におけるカダヤシの記録

高槻市立自然博物館(あくあぴあ芥川)

花崎 勝司

カダヤシはカダヤシ目カダヤシ科に属する北米原産の魚類であり、わが国においては特定外来生物に選定され、国際自然保護連合(IUCN)では世界の侵略的外来種ワースト 100 に掲載されている。本種が日本における「特定外来」、あるいは「ワースト 100」のように選定された要因の一つとして、日本ではミナメダカへの干渉行動による緒損傷、稚仔魚の捕食、温帯から熱帯域における世界各地では近縁在来種の地域的絶滅など、在来魚種群に対して負の影響を強くおよぼすことが挙げられる。日本における本種の導入は今から約 100 年前の 1916 年にさかのぼり、原産地である北米から台湾を経由して、奈良県大和郡山市に持ち込まれたものが最初とされる。

高槻市は大阪府北東部に位置し、北摂山地に属する明神ヶ岳(標高 524m)のふもとを水源のひとつとする芥川が市内のほぼ中央部を北から南に縦貫し、淀川大堰から約 15 km 上流の地点で淀川に合流する。市南部は淀川右岸に面し、その広範囲は沖積低地で耕作地や市街・住宅地があり、用排水路が網目状に走っている。

高槻市における本種の記録は 1970 年代にあり、行政主導のもと、野外に放流したと報告されている(高槻公害問題研究会, 1979)。なお、芥川下流域において 1977 年と 1979 年に採集された記録標本が当館収蔵標本として登録・保管されている。その後 2008 年まで、芥川本流中・下流域における生息魚類に関する報告は平松ほか(1998)によるものがあるが、本種の組成率は 0.1% 以下ときわめて小さい。記録標本も 1987 年と 1995 年の 2 件のみにとどまっている。2009 年～2013 年までの期間、芥川水系全域を対象とした魚類相調査を行った結果、本種は下流域を中心に 7 地点から記録された。これらのうち、淀川合流点から上流側約 700m の地点(以下、鷺打橋)では 5 年間連続で、同上流側約 3 km の地点(以下、津之江公園西側)では、2009 年を除く 4 年間連続して記録された。鷺打橋においては、2014 年の調査で確認されず、またその後現在に至るまで調査を行っていないので現状については不明である。津之江公園西側においては連続して記録された後、現在にいたるまで年 1～数回の調査を行ったにも関わらず、本種は記録されていない。最も上流側の記録では淀川合流点から約 7 km の地点にある芥川緑地前で 12 個体が 2009 年に記録されているものの、その後、現在に至るまでこの地点における記録は全くない。さらに、2016 年以降、芥川の中下流域に 6 定点を設定し各定点で年 4 回の定例調査を行っているが、この調査でも本種は記録されていない。一方、2018 年 7～12 月までの期間、市南部における水路 10 地点で本種が 1～16 個体記録された。また、1 定点において 2018 年 10 月から 2019 年 12 月までの期間、概ね月 1 回の調査を 11 回行った結果、記録されなかったのは 3 回であり、残る 8 回では 2～12 個体が記録された。

第 15 回 外来魚情報交換会

2020 年 1 月 25 日(土)～26 日(日) 草津市立まちづくりセンター